



# 安全報告書

2017



## 目 次

1 つくばエクスプレスをご利用の皆さまへ	1
2 安全に関する基本方針	2
3 安全管理体制	3
4 輸送の安全確保のための取り組み	6
4-1 安全重点施策	6
4-2 人材教育・緊急時対応訓練等	7
4-3 施設・車両の整備と計画	11
4-4 鉄道テロ対策	13
5 お客さまの安全を支える主なシステム	14
5-1 駅・車内の安全システム	14
5-2 運転・施設の安全システム	15
5-3 施設・車両の検査と整備	18
6 鉄道運転事故等の発生状況	20
7 安全のための投資	20
8 お客さまとの連携	21





## つくばエクスプレスをご利用の皆さまへ

いつもつくばエクスプレスをご利用いただき、誠にありがとうございます。  
また、平素は弊社事業に対してご理解いただき、感謝申し上げます。

つくばエクスプレスは開業以来12年、有責となる鉄道運転事故を発生させることなく、安全・安定・安心な輸送サービスを提供し続け、おかげさまで平成28年度には1日あたり35万人のお客さまにご利用いただいております。

私たちは、常に安全輸送を最大の使命にかかげ、全社一丸となって日々の輸送の安全確保に取り組んでおります。

具体的には、輸送の安全を確保するために策定した「安全管理規程」に基づき、経営トップから現場まで一丸となって、安全を最優先にする組織づくりに努めております。この「安全管理規程」には「安全の確保はすべてに優先する」などを理念とした「安全方針」を定めており、安全統括管理者をはじめ、運転管理者・乗務員指導管理者・施設管理者・車両管理者を選任して安全管理体制に万全を期するとともに、安全報告書の公表など透明性の高い鉄道運営を行っております。

こうした取り組みの下、さらなる安全・安定・安心輸送の確保を図るため進めていた工事のうち、入出庫線の複線化については平成29年3月から複線区間の供用を開始し、さらに守谷駅追越設備及び車体更新場の新設については、平成29年度中の完成を目途に工事を安全に進めております。

このほか、交直流車の増備とそれに伴う総合基地留置線の増設及び変電所の改良等の各工事を、平成31年度の完成を目途に安全に進めてまいります。

この安全報告書は、つくばエクスプレスの輸送の安全確保に対する取り組みについて、広くご理解をいただくとともに、皆さまとの信頼を強固なものとする 것을目指して、平成28年度の実績等を公表させていただくものであります。

今後も、「安全管理規程」に基づく安全管理体制の継続的な見直し、改善を図りながら、よりいっそう安全・安定・安心な輸送の確保を目指してまいりますので、よろしく願い申し上げます。



首都圏新都市鉄道株式会社  
代表取締役社長 柚木 浩一

## 安全に関する基本方針

私たちは、すべてのお客さまにつくばエクスプレスを安心してご利用いただくために、役員から社員一人ひとりまで安全方針を常に念頭に置き、安全の確保を最優先とする安全意識の徹底を図り、一致協力して鉄道輸送の使命を達成してまいります。

### 安全方針

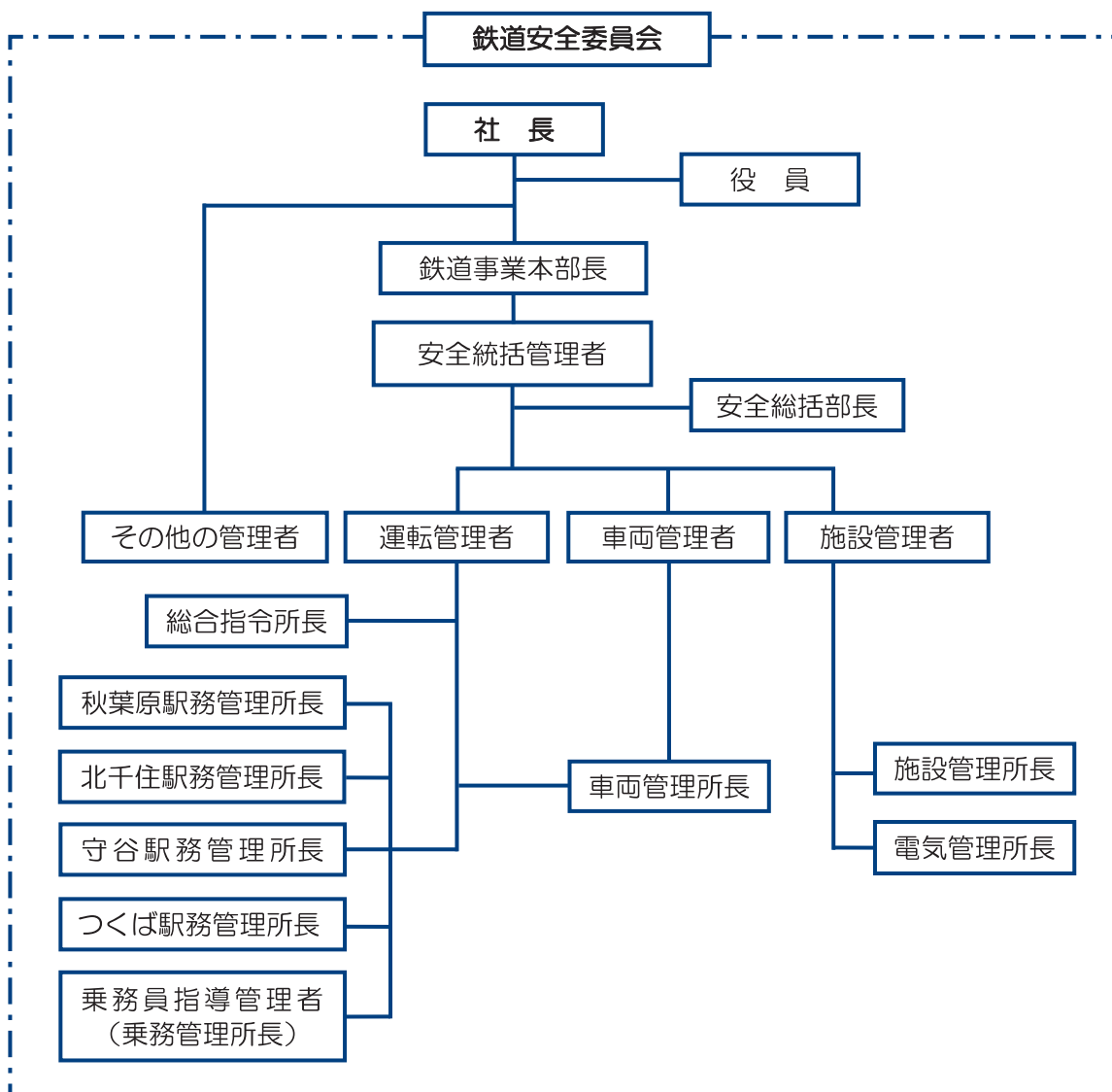
- 安全の確保はすべてに優先する
- 法令及び規定の遵守を徹底する
- 安全に関する提案や情報提供を奨励する
- 安全性向上のための投資を適切に実施する
- 安全管理体制は継続的に改善する



## 安全管理体制

### (1) 安全の確保に関する体制

安全管理規程に定める社長をトップとする安全管理の体制は次のとおりです。



#### ☆ 主な管理者の役割

安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運転管理者	運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	乗務員の資質の保持に関する事項を管理する
施設管理者	施設に関する事項を統括する
車両管理者	車両に関する事項を統括する

## (2) 鉄道安全委員会の開催、安全確保総点検、チームTXミーティングの実施

つくばエクスプレスでは、輸送の安全最優先の意識定着とその取り組みの推進を図るため、安全方針の制定、輸送の安全に関する業務を統括する安全統括管理者の選任をはじめとする安全管理体制を確立し、安全・安定・安心な輸送を目指しています。

このため、異常時対応や事故防止対策などの検討を行うために、社長を委員長とした鉄道安全委員会を開催して、全社一丸となった安全に対する取り組みを推進しています。

また、夏季及び年末年始輸送の安全確保総点検等の機会を通じて、社長及び役員が、直接現場を巡視し、現場における取り組み状況を把握するとともに安全確保の指示を行うなど、現業部門とコミュニケーションを図ることで安全意識の共有及び向上に努めています。

さらに、平成28年度から社長、役員及び部長が社員と風通しの良い職場づくりを目指し、自由に意見を交換し合う場として、チームTXミーティングを実施しています。



鉄道安全委員会



安全確保総点検



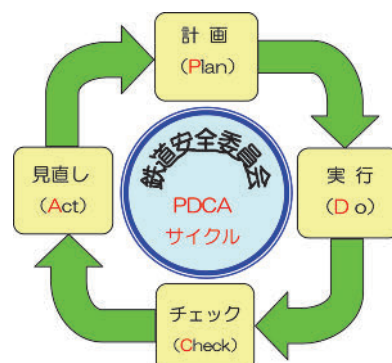
チームTXミーティング

## (3) 安全内部監査

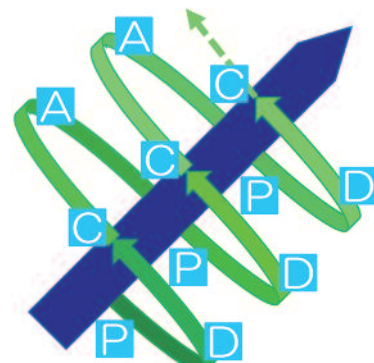
関係法令、安全管理規程、その他社内規程類との適合及び安全管理体制の有効性を確認するため、毎年安全内部監査を実施し、安全性の向上を図っています。



安全内部監査



(安全内部監査)



(安全管理体制のスパイラルアップ)



#### (4) 安全統括管理者による安全に関するヒアリング

輸送に係わる業務の実施及び管理の状況を確認することにより、潜在する危険要因を抽出し、業務改善が必要な事項についての確な措置を講ずるため、毎年安全統括管理者による安全に関するヒアリングを実施し、安全性の向上を図っています。



安全統括管理者による安全に関するヒアリング

#### (5) ヒヤリハット情報

日常業務においてヒヤリ・ハットとした体験や気付いたことなどを報告し、その貴重な情報を分析・整理して、リスクの軽減及び事故防止対策に役立てるように検討を行い、その結果を鉄道安全委員会等に報告しています。

また、併せてその内容を全社員に周知しています。



ヒヤリハット情報POST

#### ☆ ヒヤリハット情報による改善事例

つくば駅ホーム（終端側）の階段・エスカレーター付近の誘導サインを大きくわかりやすくしたことでお客さまの動線を確認し、事故防止を図りました。



(改善前)



(改善後)

#### (6) 運輸安全マネジメント評価

平成28年10月、国土交通省関東運輸局による運輸安全マネジメント評価<sup>(注)</sup>が行われました。当社の輸送の安全確保に関する取り組みについて評価いただくとともに、さらなる向上を目指すための助言をいただきました。

(注) 運輸安全マネジメント評価とは、事業者が構築・維持している安全管理体制について、国が経営管理部門を対象にインタビューと文書・記録類の閲覧・確認を行い、評価・指導を行うものです。

## 輸送の安全確保のための取り組み

### 4-1 安全重点施策

平成23年度から3年先を見通した安全重点施策を策定することにしてしています。平成29年度は、原点に立ち返って業務内容や業務の進め方を点検し、改善に取り組んでまいります。また、現場と本社及び部門間の連携を密にし、スピード感を持って課題解決にあたる組織体質をつくりあげてまいります。

#### 平成29年度 鉄道事業本部 安全重点施策

##### ○ 具体的な目標と取組計画

##### 1. 積極的に若手、中堅、管理者、会社幹部が相互にコミュニケーションをとり、元気で明るい職場にする社風の醸成

- (1) 安全方針の周知・徹底した取り組み
- (2) ヒヤリハット情報制度の活用
- (3) 安全統括管理者のヒアリングの充実
- (4) 「本社と現業」等の緊密な連携の促進

##### 2. 教育訓練の充実強化

- (1) 教育訓練の点検・見直し
- (2) 管理者教育の充実強化
- (3) 異常時対応能力の向上に役立てる教育設備等の充実

##### 3. 適切な点検、保守、更新の実施

- (1) 施設・車両の適切な点検と保守の実施
- (2) 性能を維持するため、施設・車両の部品などの取替基準の明確化と計画的更新

##### 4. 新たな安全対策の推進

- (1) 新たな安全対策投資等（継続中のものを含む）
  - ・ 入出庫線複線化工事      完成年度      : 平成29年度
  - ・ 守谷駅追越設備工事      完成年度      : 平成29年度
  - ・ 車体更新場新設工事      完成年度      : 平成29年度



- (2) 輸送力増強施策
  - ・ 新型車両5編成増備 完成目標年度：平成31年度
  - ・ 留置線新設工事 完成目標年度：平成31年度
  - ・ 変電所改修工事 完成目標年度：平成31年度
- (3) 規程類の点検の深度化
- (4) 運輸安全マネジメント制度の現業部門への浸透
- (5) 地震・水害等、自然災害対策
- (6) 安全対策に関する調査・試験

**5. 鉄道テロ対策**

「目に見える警備」を意識した警備体制の強化

**6. 事故・トラブル等発生時の対応**

- (1) 事故・トラブル等発生時（発生が疑われる場合も含めて）の初動体制の強化
- (2) 本社事務所の移転・集約を踏まえて、事故・災害等対策の再確認

以上の具体的な目標と取組計画により、一層の安全性の向上を目指すものです。

**4-2 人材教育・緊急時対応訓練等**

**(1) 平成28年度の人材教育**

**① 安全教育の実施状況**

社員の知識・技能の着実な習得と維持・向上を図って輸送の安全を確保するため、毎年度計画を定めて本社各部及び現業で基礎教育、専門教育、異常時対応訓練、労働災害防止の教育訓練等を実施しています。平成28年度に実施した主なものは次のとおりです。

**ア. ヒューマンファクター教育**

安全教育の一環として、ヒューマンファクターに関する理解の浸透を図るため、JR西日本安全研究所が発行した「事例でわかるヒューマンファクター」を活用して各管理所等で実施しました。



ヒューマンファクター教育

## イ. 普通救命講習

AEDの取り扱いを含む「普通救命講習」を駅務管理所等において消防署員等の指導のもと実施し、緊急時に備えています。



普通救命講習

## ウ. 安全マネジメント教育

運輸安全マネジメント制度の理解を深めるため、当社の安全管理体制についての教育を現業の新任所長及び新入社員等を実施しました。

## エ. 安全講話会

平成29年3月16日、安全講話会を開催しました。本年度は、防災教育を目的に常総広域消防本部警防課に講師をお願いし、「平成27年9月鬼怒川氾濫の体験を踏まえて」をテーマに、活動内容や被害状況・災害対応への教訓等について講話をいただきました。



安全講話会

## ② サービス介助士の資格取得の推進

お客さまに、安心して快適なサービスを提供するため、特に高齢者やお身体の不自由なお客さまのご案内に必要な知識や技能を身につけるため、サービス介助士<sup>(注)</sup>の資格の取得を駅係員・乗務員に対して進めています。なお、平成29年3月末現在の取得人数は266名です。

(注) サービス介助士とは、公益財団法人（日本ケアフィット共育機構）が認定する資格で、有資格者は高齢者やお身体の不自由なお客さまのご案内に必要な知識や技能を身につけています。



サービス介助士襟バッジ

## (2) 平成28年度の緊急時対応訓練

### ① 異常時総合訓練

平成28年10月20日、総合基地において「地震により線路内に落下した建築資材の鉄骨と衝突、このため電車は脱線、架線を断線、線路を一部損傷し、乗客多数が負傷した」との想定で、事故の対処を目的として、異常時総合訓練を実施しました。

この訓練には常総広域・つくば市・取手市消防本部、常総・取手警察署に協力をいただき、応急手当・AED訓練も含め、本番さながらの訓練となりました。一般見学者を合わせて351名が参加しました。



避難誘導訓練



負傷者救助訓練



支障物撤去訓練



架線断線復旧訓練



車両脱線復旧訓練



現地本部通報連絡訓練

### ② 飛来物除去訓練

平成28年6月7日・12月15日、「強風時に電車線等に飛来物が付着した」との想定で、列車運行への影響を少なくして、お客さまへのご迷惑を最小限に留めることを目的として、飛来物を安全かつ速やかに除去する訓練を実施しました。



飛来物除去訓練

### ③ 避難誘導訓練等

平成28年6月19日、終列車後深夜、「地震や事故等により駅間で列車が停止した」との想定で、トンネル内避難誘導訓練、車両ドア故障時応急処置訓練、ホームドア故障時対応訓練等の取り扱い訓練を実施しました。



トンネル内避難誘導訓練



#### ④ 保守用車脱線復旧訓練

平成28年6月20日、「保守作業中に軌道モーターカー等の脱線が発生した」との想定で、特殊なジャッキを使用して、レール上に戻す訓練を実施しました。



保守用車脱線復旧訓練

#### ⑤ 信号装置故障時対応訓練

「信号装置や転てつ器の故障により、総合指令所で制御できなくなった」との想定で、定期的に駅係員による信号装置取り扱い訓練及び転てつ器手回し訓練を実施しました。



転てつ器手回し訓練

#### ⑥ 地方自治体等との合同訓練

平成28年4月20日、警視庁万世橋警察署主催による国際テロ対策合同訓練が、「秋葉原周辺の視察をした外国の要人が秋葉原駅で2名のテロリストに襲撃される」との想定で実施されました。

この訓練に秋葉原駅務管理所等約60名が参加しました。



秋葉原駅での国際テロ対策合同訓練

#### ☆ 異常時支援用ワッペンの導入

社員のさらなる安全意識の向上、異常時における支援体制の強化を図るため、通勤時及び私用にて当社線を利用中に、異常時が発生した場合において、支援活動を行う際に当社社員であることを明確にするために使用するものです。

このワッペンは、常に携帯し、異常時には左胸に貼り付け支援活動を行います。



異常時支援用ワッペン

## 4-3 施設・車両の整備と計画

### (1) 平成28年度の主な実績

#### ① 風速計の2重化

沿線に設置している風速計を各箇所1台増設し、2重化することで信頼性向上を図りました。

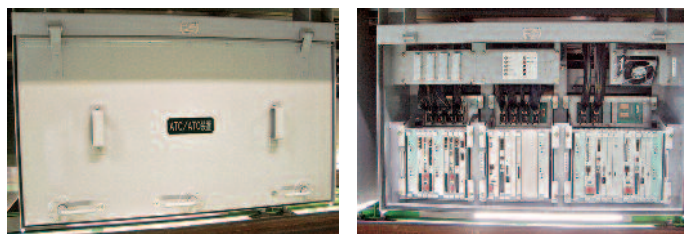
なお、増設した風速計は、雷害の影響を受けにくいデジタル方式を採用しました。



2重化した風速計

#### ② 車両機器の更新

予防保全として、平成25年度から進めてきた保安装置（ATC、ATO、TIS<sup>(注)</sup>、列車無線等）の機器更新は、平成28年度に終了しました。



TX車両床下のATC/ATO装置

(注)「車両制御情報管理装置」のことで、各機器からの情報集約・伝送・表示という情報処理機能があります。また、通常の機能としては、運転情報・空調設定・列車番号設定・案内設定等のメニューがあり、乗務員が選択し列車運行に使用しているものです。

### (2) 平成29年度以降の主な計画

#### ① 入出庫線の複線化

守谷駅と総合基地を結ぶ入出庫線を複線化し、入出庫線上で車両故障等のトラブルが発生した場合でも列車運行への影響を最小限に留めます。

平成29年3月、施設、電気関係の主な工事は終了し、線路切替を実施後、入出庫線の複線の供用を開始しました。今後は、不要になった分岐器の撤去等の工事を行い、平成29年度内の完成を目途に安全に工事を進めています。

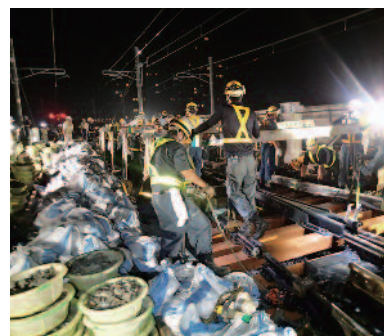


複線化した入出庫線

#### ② 守谷駅追越設備の新設

守谷駅で快速列車と普通列車との乗り換えが可能になるなど利便性の向上を図るため、追越に必要な分岐器の設置等の工事を行っております。

平成28年度までに橋桁の補強や分岐器の設置等の工事は終了し、今後は、信号設備等の工事を実施し、平成29年度内の完成を目途に安全に工事を進めています。



工事中の守谷駅構内



### ③ 車体更新場の新設

安全・安定・安心輸送を確保するには、車両のメンテナンスが不可欠です。

定期的に車輪やブレーキなどの緻密な検査を行っていますが、今後生じる車体の大修繕に備えて、車体更新場を新設します。

平成27年度から建設工事を行い、平成29年3月末に建築関係の工事は終了し、今後は、機械設備・電気工事を行い、平成29年度内の完成を目途に安全に工事を進めています。



車体更新場

### ④ 設備集中監視装置の更新

各駅の空調設備、昇降設備、ホームドア、出入口シャッター等を総合指令所、駅事務室、電気管理所、施設管理所等から一括集中して、稼働状態の監視、遠隔操作・制御を行う設備集中監視装置を設置しています。しかし、運用から約10年が経過し、経年劣化による電子機器の故障頻度が増加していることから、平成27年度より更新を順次実施しております。なお、この更新は、平成30年度内の完了を目途に進めています。

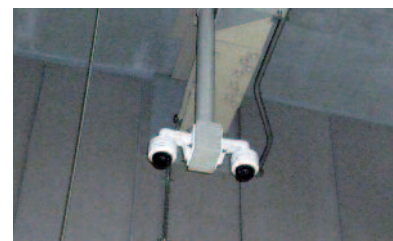


設備集中監視装置モニター画面

### ⑤ 変電所に監視カメラを設置

変電所においては、高圧の電気を使用していることから潜在的に火災発生リスクを有しています。その対策として火災感知器を設置していますが、誤作動の可能性があるため、内部の状況が監視できるよう、カメラを設置することとしました。

平成28年度は守谷変電所、みどりの変電所の2変電所に設置しました。平成30年度までにすべての変電所に設置を完了させる予定です。



変電所内の監視カメラ

### ⑥ 車両の増備等

朝間時間帯の輸送力増強を図るため、現在の37編成222両に加え、新たに交直流車5編成30両（1編成6両）を平成31年度末を目途に増備します。

また、これに併せて、変電所の容量を安定させるための改良及び総合基地の車両収容能力を高めるため、留置線3線を増設します。



現在の交直流車（TX2000系）



## 4-4 鉄道テロ対策

目に見える警備を軸とした次のような鉄道テロ対策を行っています。

### (1) 監視カメラ

駅構内の状態確認と、防犯、防災、テロ防止等のため全駅に監視カメラを設置しています。また、駅構内に「監視カメラ作動中」を表示し、被害発生防止を図っています。

このほか、総合基地にも監視カメラを設置し、テロ等の対策を行っています。



駅構内の監視カメラ

### (2) 「目に見える」巡回警備

社員や警備員が警備腕章を着用し、警戒体制を敷いていることを見える形にして、巡回警備を行っています。



警備腕章

### (3) 不審物等発見時の協力要請

駅構内等において、不審物発見の協力要請についてのテロップ、ポスターの掲示を行っています。

テロの発生を抑止するためには、不審者・不審物の早期発見が重要です。不審者・不審物等を発見した場合には、駅係員、乗務員、警備員へ連絡通報していただくようお客さまへのご協力をお願いしています。



協力要請テロップ

### (4) 販売店の店員等のテロ防止協力者

#### ワッペンの着用

販売店の店員等に、「テロ防止協力者ワッペン」の着用を要請し、不審者・不審物の早期発見と連絡通報の協力体制をとり、テロの防止を図っています。



テロ防止協力者ワッペン

## お客様の安全を支える主なシステム

### 5-1 駅・車内の安全システム

#### (1) ホームドア

ホームからの転落や列車との接触を防止するため、全駅にホームドアを設置しています。ホームドアの開閉は、車両ドアの開閉と合わせて自動的に行われます。

なお、靴や傘などの車両ドア挟み支障を考慮し、検知精度を向上させるため、平成28年12月から3次元（立体）で検知するセンサーを使用した実証実験を開始しています。



ホームドア

#### (2) 車内非常通報装置

車内で急病人が発生した場合などの緊急連絡用に、非常通報器を車内に設置しています（各車両に2箇所、このほかに2・5号車の車椅子スペースにも1箇所設置）。ボタンを押すと乗務員室につながり通話することができます。乗務員が対応できない場合は、15秒後に総合指令所につながり指令員と通話することができます。



車内の非常通報器

#### (3) インターホン

全駅の2号車と5号車付近のホームドアや化粧室にもインターホンが設置され、駅係員と通話することができます。



化粧室内多機能トイレのインターホン



ホームドアのインターホン



#### (4) AED (自動体外式除細動器)

心室細動を発症された急病人への有効な応急処置・救急活動を円滑に行うため、全駅の改札口付近にAEDを設置しています。

平成28年度の使用実績は1件です。



AED

## 5-2 運転・施設の安全システム

### (1) 自動列車制御装置 (ATC)

列車の衝突や脱線等を防ぎ、列車の運転を安全にサポートする装置としてATCを採用しています。ATCは曲線やこう配、先行列車との距離を考慮した速度情報を列車が常に受信し、走行速度が定められた速度を超えた場合、自動的にブレーキが作動し列車の安全を守るシステムです。

### (2) 自動列車運転装置 (ATO)

乗務員がお客様の乗降を確認しドアを閉めた後、運転席の出発ボタンを押すと、列車は所定速度まで自動的に加速し、その後は定められた運転パターンで走行します。次の停車駅に近づくと地上に設置した機器からの距離情報を得て、車上で停止パターンを作成し停止します。このように運転操作がすべて自動化され安全運行を支援しています。

130km/hの高速で快速列車など複数の列車種別のある線区でのATO運転は、わが国で初めての採用です。

また、平成25年8月から列車運行の使用電力量を節減させるため、惰行制御を取り入れました。これにより乗り心地の向上や関連部品の延命化を図ることができました。



運転台とATO運転

### (3) 完全立体交差化

全線 (58.3km) がトンネル・高架橋・橋りょう等であり、踏切事故の要因となる道路との平面交差はありません。



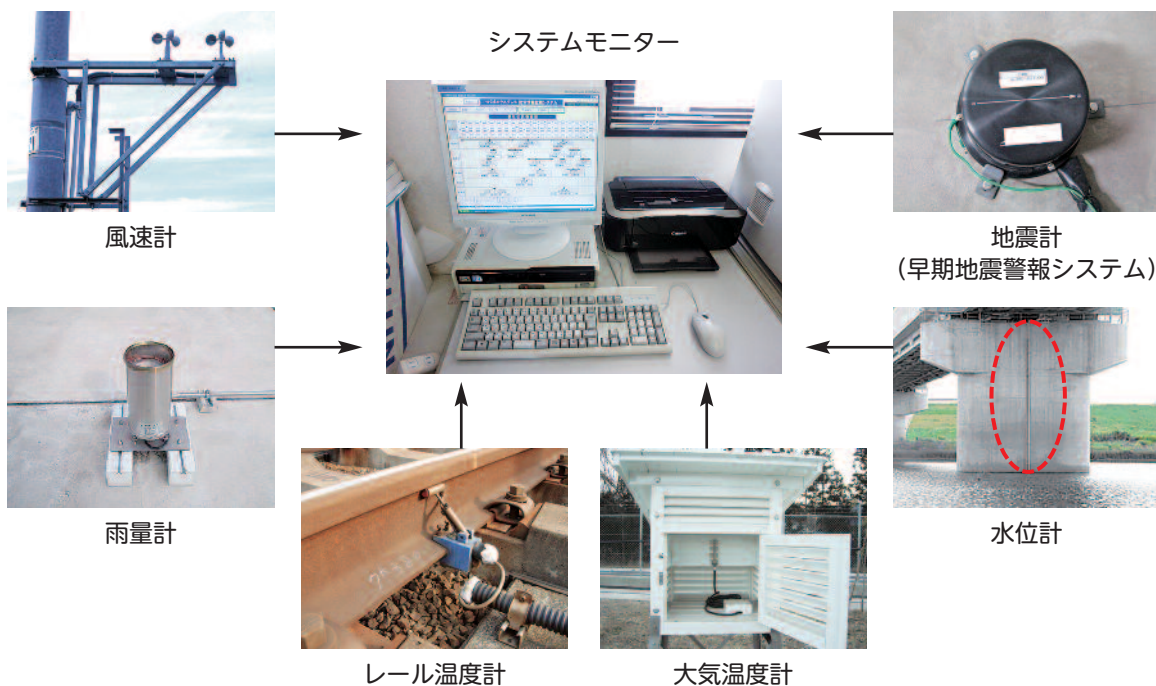
立体交差



#### (4) 沿線防災システム

自然災害による事故を未然に防ぐため、沿線に設置した風速計・雨量計・温度計・水位計・地震計の各情報を収集監視するシステムを導入し、基準値を超えた場合には列車の運転を規制し、安全を確保しています。

地震計については切迫する首都直下地震等に備え機能増強を図っています。

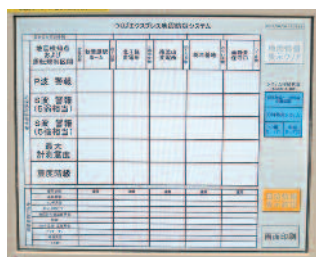
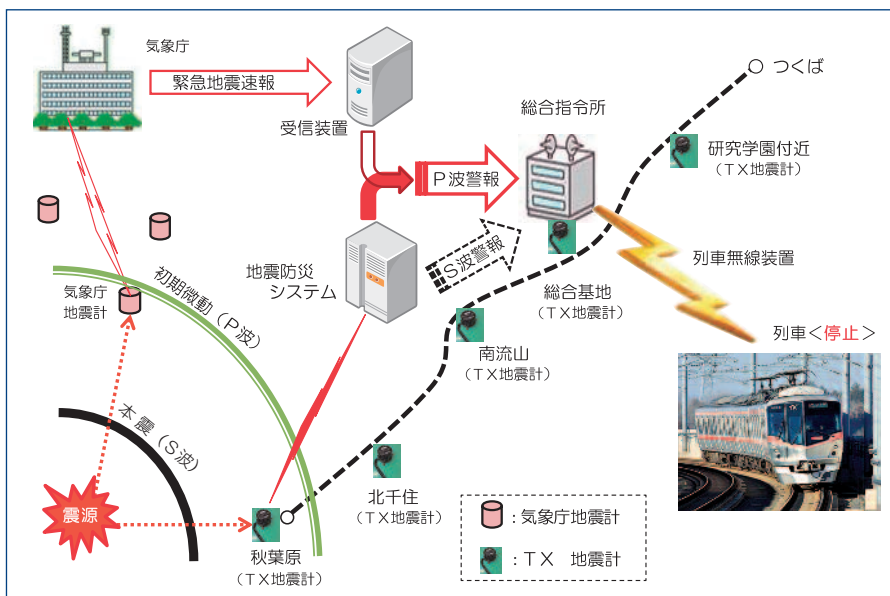


風速計	風速を観測し瞬間風速と平均風速を表示する機器
雨量計	降雨量を観測する機器で1時間の単位雨量と降り始めからの積算雨量を演算する機器
温度計	レール及び大気の温度を観測する機器
水位計	河川の桁下水位を観測する機器
地震計	地震の初期微動（P波）を検知し大きな揺れ（震度5弱以上）が到来すると推定された場合、及び震度5弱以上の揺れ（S波）を検知した場合、警報を発出する機器

### (5) 早期地震警報システム

平成23年3月の東日本大震災を踏まえ、切迫する首都直下地震等に備えるため、従来からの気象庁の緊急地震速報の活用と併せ、早期地震警報システムを充実しています。

【早期地震警報システム構成図】



早期地震警報システムモニター画面  
(沿線地震計)



緊急地震速報モニター画面  
(気象庁)

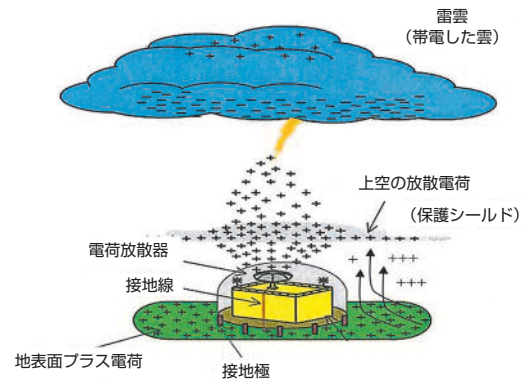
具体的には、沿線に「地震の初期微動(P波)の観測から大きな揺れの到来を推定する機能」を備えた地震計を設置しています。これにより初期微動を検知し沿線に震度5弱以上の地震が到来すると推定された場合、及び気象庁の緊急地震速報で震度4以上の地震が到来する場合には、直ちに自動的に列車無線により全列車に停止指示の警報音と音声メッセージが通報されます。この通報を受け、乗務員は緊急停止操作で列車を減速・停止させ、被害の軽減を図ります。

導入効果として平成25年11月10日午前7時37分頃に発生した茨城県南部を震源とする地震が発生しましたが、気象庁の緊急地震速報より約4秒早く警報が発せられました。

その他の対策として、震度6強以下の地震で駅間停止した場合には、列車の乗客の避難誘導のため、前方を注視しながら、最徐行で最寄駅まで移動することにしました。

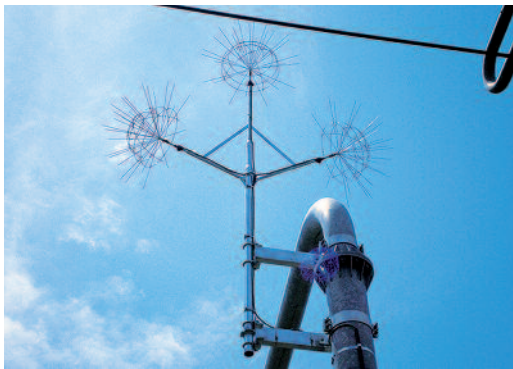
## (6) 防雷システム

雷の被害から列車運行に関係する重要な機器・設備を守るため、総合基地、北千住・八潮・流山おおたかの森・守谷の各駅、みどりの変電所に防雷システムを整備しました。



### 【防雷システムの概要】

- ① 雷雲の発生により地表面に誘導されたプラス電荷を、電荷放散器で空中に放散します。
- ② 放散された電荷が上空で保護シールドを構成し、雷雲と上空の放散電荷の間で放電することで、大地への落雷を防止します。



電荷放散器



守谷駅に設置された電荷放散器

## 5-3 施設・車両の検査と整備

つくばエクスプレスの鉄道施設は十分な耐震性を有するとともに、軌道は殆どの区間でコンクリート構造となっています。

また、安全で安定した輸送を確保するため、施設及び車両について定期的に緻密な検査と整備を計画的に行っています。

### (1) 土木施設

高架橋、トンネル等の構造物、レールの状態の検査を目視、総合検測車やレール探傷車等により定期的に行うとともに、測定機器を営業列車に乗せての動揺検査も実施しています。また、乗り心地の改善、レールの延命のためレール削正車も導入しています。

駅の建物検査、消防設備の点検、エスカレーター・エレベーター、ホームドア等の機械設備の定期検査も実施しています。





総合検測車



ホームドア点検

## (2) 電気施設

変電所の変圧器等の設備、電車線設備、ATC・電子連動装置等の信号設備、監視カメラ・電話設備等の通信設備、駅の火災対策設備、照明設備について定期的に検査を実施しています。検査は、目視及び総合検測車等の計測機器により実施しています。



電車線設備の点検



変電所内の点検

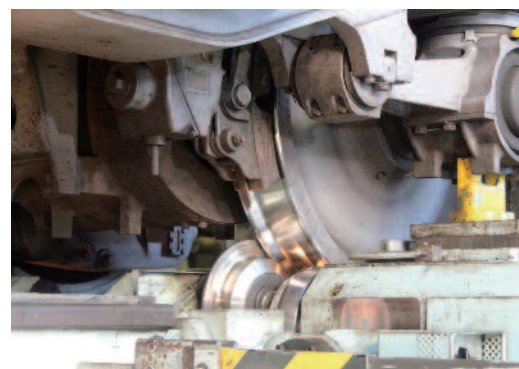
## (3) 車両

車両の状態について外部から行う列車検査、装置を取り付けた状態で機能の確認を行う月検査、車両の主要部分を分解して行う重要部検査、主要部分を取り外して行う全般検査を定期的実施しています。

また、列車の乗り心地の確保のために定期的に車輪の転削を実施しています。



屋根上機器の点検



転削中の車輪

## 鉄道運転事故等の発生状況

### (1) 鉄道運転事故

平成28年度に発生した鉄道運転事故<sup>(注)</sup>は、ありません。

(注) 鉄道運転事故とは、国土交通省の鉄道事故等報告規則(省令)に基づく列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故をいいます。

### (2) 輸送障害

平成28年度に発生した輸送障害<sup>(注)</sup>は4件あり、お客さまには大変ご迷惑をおかけしました。原因別の内訳は、車両トラブルに起因するものが2件、自然災害(台風)によるものが1件、第三者障害<sup>\*</sup>によるものが1件ありました。

(注) 輸送障害とは、省令に基づいて国土交通省への報告対象となっている列車の運休、または30分以上の遅れをいいます。

<sup>\*</sup> 自殺と思われるもの、線路内立入り等に起因するものをいいます。

### (3) インシデント

平成28年度に発生したインシデント<sup>(注)</sup>は、ありません。

(注) インシデントとは、省令に基づく鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。

### (4) 行政指導等

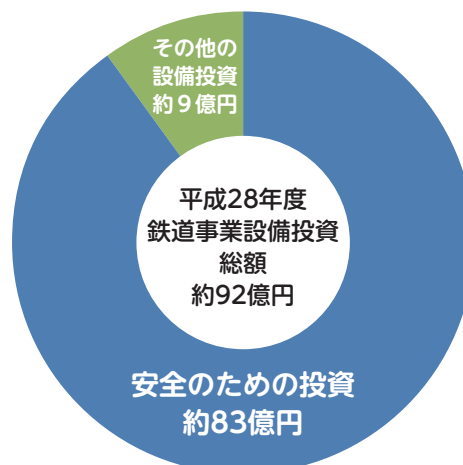
平成28年度は、国土交通省からの指導事項はありません。

## 安全のための投資

つくばエクスプレスでは、開業後も必要な安全投資を継続してまいりました。

平成28年度は、入出庫線の複線化(工事中)、車両機器・通信設備の更新及び風速計の2重化など、約83億円の投資を行いました。

このほか、守谷駅追越設備新設の工事を進めており、サービス向上も図っています。



## お客さまとの連携

### (1) こども110番の駅

公共機関として地域の犯罪を減少させるべく、全駅を「こども110番の駅」としています。

「こども110番の駅」では、こどもが駅に助けを求めてきた場合には保護し、こどもに代わって110番通報を行うなどの対応をとります。また、犯罪発生時だけではなく、安全・安心な地域づくりに貢献するとともに、親しみのある駅づくりを目指しています。



(C)2017 Gullane(Thomas)Limited.

案内表示

### (2) ご利用のお客さまへのお願い

鉄道の安全・安定・安心輸送を確保するため、次の内容について、お客さまにご協力をいただくよう取り組みを行っています。

#### ① 駅ホームにおける安全性向上のため、お困りのお客さまへのお声掛け

当社では全駅にホームドアを設置していますが、さらに安心してご利用いただくためにお困りのお客さまには駅係員がお声掛けを実施しています。

また、視覚障害をお持ちのお客さまや何かお困りのお客さまをお見かけした際には、駅係員や乗務員にお知らせいただきますようご協力をお願いします。

#### ② 節電対応へのご理解とご協力

東日本大震災以降、車両や駅構内のLED化を推進するとともに、駅構内等で照明の一部を消灯するなど、使用電力の抑制に努めております。車両については平成26年度末にLED化が完了し、駅のホームの照明についても平成29年度内に完了する予定です。引き続き、駅のコンコース等のLED化に取り組んでまいります。



LED照明にしたTX-1000系

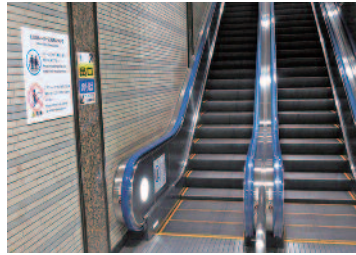
なお、一部照明を消灯している箇所については、LED化に合わせて解消することとしております。お客さまにはご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。




### ③ エスカレーターの適正利用


エスカレーター内の歩行は、思わぬ事故のもとになりますので、おやめください。

エスカレーターをご利用される時は、ベルトにつかまり黄色い線の内側にお乗りください。



**エスカレーターご利用について**  
Use of the Escalator

 ベルトにつかまり黄色い線の内側にお乗り下さい。  
Please use handrail inside the yellow line.

 エスカレーター内の歩行は思わぬ事故のもとになりますのでおやめください。  
Please do not walk on the escalator.

**危険**

注意表示（エスカレーターに掲示）

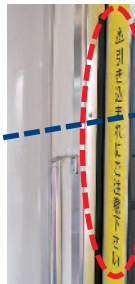
### ④ 車両ドア引き込まれ注意

車両のドアが開くとき、お客さまの鞆などが戸袋に引き込まれることがあります。

ドアが開く際には鞆などをドアから離して、引き込まれないようご協力をお願いします。



ドア引き込まれ注意ステッカー



ドア戸袋側



ドア引き込まれ注意表示

### ⑤ ホームドアの適正利用

全駅にホームドアを設置しておりますが、列車へのかけこみやホームドアから手などのお身体を出すことは大変危険ですので、おやめください。また、ホームドアへの物の立てかけも、おやめください。

### ⑥ 線路に物が落ちたとき

線路に物が落ちたときは、お近くのインターホンで駅係員をお呼びください。

線路に下りる行為は大変危険ですので、おやめください。

**線路に物が落ちたときは  
大変危険ですので  
必ず駅係員を  
お呼びください。**

**SOS** お近くに駅係員がいないときは、2号車と5号車付近の可動式ホーム柵に設置されているインターホンでお知らせください。

駅係員呼出し表示  
(ホームドアに掲示)

⑦ かけこみ乗車はキケンです

発車間際のかけこみ乗車は大変危険です。ホームでの転倒やドアに挟まれ思わぬ怪我をされたり、お荷物が挟まれることもあります。また、列車の遅れの原因にもなり他のお客さまのご迷惑になります。ドアが閉まりかけたときは無理をせず、次の列車をお待ちください。

このほか、混雑時、ドアが閉まる際にはお荷物を強くお引きくださるようご協力をお願いします。



かけこみ防止表示



めいわくだもの



かけこみ防止ポスター

⑧ 衝突防止ミラーの設置

駅構内の安全な通行を確保するため、お客さま同士が衝突するおそれがある箇所には、衝突防止用のミラーを設置しています。



衝突防止ミラー

⑨ 車内への消火器の配置

各車両の優先席の下には、消火器を配置しています。

なお、各車両ドアの上部に「消火器・非常通報器の配置位置」の案内を、また、消火器の配置してある壁面に「消火器」の案内をわかりやすいように標記しています。



車内の消火器・非常通報器案内標記



⑩ 列車運行を妨害する行為の禁止

列車への投石、障害物の放置などは列車往来危険罪、器物破損罪などの犯罪行為です。

このような行為を見かけられたときは、駅係員、乗務員、警備員、警察にご連絡をいただくようご協力をお願いします。



この安全報告書は、平成28年度末現在のつくばエクスプレスにおける安全の確保のための取り組みや、安全の実態をまとめたものです。  
ご一読いただき、ご意見・ご感想をお寄せください。



#### TXコールセンター

TEL 0570-000-298 (通年9時~19時)  
ホームページ : <http://www.mir.co.jp>

編集 | 首都圏新都市鉄道株式会社  
鉄道事業本部  
安全総括部 安全推進課